

## 普及情報

### 「純正・健全・良質」な種子生産の技術向上に取り組む

#### 1 はじめに

県内には9つの種子生産組合があり、主要農作物の採種事業を行っている。水稻は310haの採種ほで種籾が生産されている。その中で、加東郡社町は、兵庫県の特産である酒米「山田錦」の県内唯一の種子産地である。兵庫県の酒米の生産振興の要として、良質な種子生産に向けた取り組み事例を紹介する。

#### 2 種子の共同乾燥調製がスタート

加東郡種子生産組合は1962年に採種栽培を始め、現在、社町牧野で35haの水稻採種ほで種籾を生産している。この種子生産組合の特徴は、1戸当たりの採種は面積が1.6haと大きく、「山田錦」の割合が高いことである。かつて、採種農家は育苗から乾燥調製まですべて個別対応で種子生産を行ってきた。

しかし、生産される種子の品質が農家ごとにバラツキを生じるなど問題を抱えていた。

1993年に先進的農業総合推進対策事業を活用して、種子の乾燥から調製の作業を一体的に処理できる新しい種子センターが完成した。これを機に、個別に対応していた作業を一部共同化し、効率的に優良な種子を生産する体制を整えることになった。

#### 3 審査と指導の狭間で

「山田錦」の採種栽培では、他の品種に比べて、以下の点に注意を払っている。

晩生の倒伏しやすい品種であり、施肥量に敏感で、肥料の散布ムラが籾の充実度や成熟時期の差を大きくする。籾の充実度を揃えるためには均一な施肥と刈り取り時期の判定を慎重に行う必要がある。

「山田錦」の品種本来の特性である大粒で、心白の発現が良好であることは種子生産においても当然

求められるので、稲の健全な発育に努めている。

籾殻まで商品であり、一般栽培の病害虫防除に加えて、内穎褐変病などの籾を汚す病害虫に対しても薬剤防除を徹底している。

共同化を進める中で避けて通れないことは、いかに個々で行われている栽培管理の歩調を揃え、良質な種子を生産するかである。そのため、主要農作物種子法に基づく種子審査に加え、穂肥診断や収穫適期指導を行うなど現地での指導の徹底を図った。

#### 4 共同化の成果、そして苦勞の種は尽きず……

乾燥調製の共同化は、種子センター内10台の乾燥機をそれぞれ2～3戸に割り振るところから段階的に進み、1999年から本格的に乾燥調製の共同化が始まった。その結果、品質の揃った種子生産が行われるようになってきている。

種子の需要が伸び悩み、採種農家の高齢化が進む中で、種子の品質向上の要望に応えるためには、乾燥調製だけでなく、今後は田植や収穫など他の基幹作業についても共同化を検討していく必要がある。

細見 淳（加西普及センター）



山田錦ほ場審査の様子